

第1回 第5次羽咋市総合計画 審議会 会議録

日時 平成22年6月17日(木) 19時～21時

場所 羽咋市役所 4階 401会議室

出席者 市長

各審議会委員(欠席者なし)

アドバイザー 金沢大学 神谷教授

市側出席者

[事務局]

企画財政課長 岸 博一

企画財政課総括主幹 川口 哲治

企画財政課主幹 松田 秀治

企画財政課主任 中村 仁志

会議傍聴者 なし

1. 開会

2. 市長あいさつ

(略)

3. 委員の紹介

4. 羽咋市総合計画審議会条例の説明

5. 会長及び副会長の選任

今井氏を会長に選任

立浦氏を副会長に選任

6. 審議事項

(1) 会議の公開及び会議録等の取り扱いなどについて

(2) 資料説明

① 人口について

② 財政の状況について

①、②を事務局より説明の後、審議

【委員】

・人口について、新聞と広報で報告された市の人口と異なるがなぜか。

【事務局】

・人口推計は国勢調査に基づくものなので、住民基本台帳との違いがある。例えば大学生で住民票を移さずに住所を変更したりする人もいるので、実態を調査する国勢調査とのずれがある。

【委員】

・人口について、平成 22 年の人口推計とあるが、実態との相違はあるのか。

【事務局】

・今年が国勢調査の年になり、10 月 1 日現在で実施する予定なので、結果は速報でお知らせしたい。

【委員】

・人口について、10 年後の推計までしか出てないが、それ以降のデータはないのか。

【事務局】

・データがあるので、後日、調べて報告する。

【委員】

① 財政について、資料の比較がなぜ平成 13 年度と 20 年度なのか。

② 財政について、基金残高は現在どのようになっているのか。

【事務局】

① 平成 13 年度は第 4 次総合計画が始まった年であり、平成 20 年度は最も直近の決算の年度であるので比較した。平成 21 年度はまだ決算の取りまとめが終わっていない。

② 基金は、平成 21 年度は約 1 億 5 千万円程度になる。平成 11 年度に 5 億円あり、平成 15 年度には 9 億円とピークだった。しかし、平成 16 年度に小泉内閣により三位一体の改革がなされ、収入（補助金、交付税）が減った。急激に行政サービスを低下させないよう、貯金である基金を崩して対応してきた。昨年に財政再建緊急プログラムを作り、歳出抑制を図り、なるべく貯金を崩さないという方向で臨みたい。

【委員】

・財政について、職員給とあるがどのようなものか。

【事務局】

・一般職員の給与のこと。特別職、一般職員の退職金は除かれる。

【委員】

- ・財政について、歳入に対しての人件費の割合は。

【事務局】

- ・おおむね15%程度に相当する。

【委員】

- ・財政について、経常収支比率が県内ワーストと説明があったが、いつ頃からか。

【事務局】

- ・平成18か、19年度までは七尾市がワーストで、羽咋市が2番目だったのでなかったか。平成20年度から羽咋市が逆転し、ワーストになったはず。現在市の財政は、投資をするような余裕があまりないような状況。過去行ってきた大型事業や下水道事業の負担が重く、それも後2、3年経過すれば軽減される予定。

【委員】

- ・財政について、下水道普及率は。

【事務局】

- ・80%程度。

【委員】

- ・人口について、市内の人のうち、市内にどれくらい就職しているのか。

【事務局】

- ・次回までに調べて報告する。

③ 羽咋市総合計画管理書について

質疑なし

④ 市民アンケートについて

⑤ まちづくりアンケートについて

④、⑤を事務局より説明の後、審議

【委員】

- ・アンケートだけに頼るのはやめたほうがよい。自由意見を出して、それに基づいてやるのがよい。
- ・個別にやると、マスタープランが分断されるのではないか。このような会議

の進め方とアンケート重視が行政主導になるのではないか。

【事務局】

・アンケートは市民の意見を聞き、分析するという意味合いがある。今後神谷先生のアドバイスを受けながら分析していきたい。

【事務局】

・神谷先生からアンケートでご意見があればお願いしたい。

【アドバイザー】

・例えば 30 代が子育て支援への意見が多いとかといったように、自分の都合で答えたりする。羽咋市全体でみたら少数意見。少数意見だからと言って切り捨てるわけにもいかない。しかし、それをすべて拾い上げるとなると、重点がわからなくなる。どこにメリハリをつけるか。30 代が少ないが、今後の 10 年後の羽咋市を考える上で、重点を置こうとすれば重い意味を持つ。そういうふうに数字の背景にまで踏み込んで考えていったらよいのではないかと思う。

【副会長】

・アンケートには地域の特性が出ていたと思う。声として大事な部分だと思う。市の公平性を考えた時にどうか。政策を立てるときの議論の一つになると思う。

【委員】

・アンケートを全く無視しろと言っているのではない。アンケートの魔術にまどわされるなど言っているだけ。

【委員】

・過去にアンケート調査する立場にあった。金沢大学の先生もおっしゃっていたが、読む人によって怖いものになる。対面式かそうでないかによっても異なってくる。自由意見は大事で、少数意見でもポイントを絞ってやってはどうか。例えば将来のことを考えるのであれば、若い人の意見を少数でも大事にして議論で使っていけば有効だと思う。

【委員】

・アンケートで少子、高齢化対策に力を入れて欲しいとの声が多かったようだが、年間出生率は 150 人くらいだと聞いている。自由意見の中で、安心して子供を産める施設が欲しいといった声はなかったのか。

【事務局】

・アンケートの意見では確認できていないが、地区懇談会で出された意見の中には羽咋病院に産科が欲しいといった声があった。今後の施策にどう反映するか考えていきたい。

・補足だが、アンケートは 10 年前にもアンケートをとっていて、市民意識がどう変わってきているのかという分析もしている。

⑥ 地区懇談会について

⑦ 会議開催計画(案)について

⑥、⑦を事務局より説明した後、審議

【委員】

・アンケートには外から入ってきた人の意見が入ってない。若い人が入ってくるような魅力をもつまちづくりをしていくためには、外からの意見も入れるべきではないか。

【事務局】

・審議員さんにハクイ村田の工場長さんがいらっしゃるが、最近羽咋市に入ってきた。こうした方を通して外からの意見もできるだけ取り入れたい。
・総合計画の策定スケジュールで示したとおり、各種団体との意見交換という場を設ける予定。その際に、10年以内に羽咋市に転入された方の意見も取り入れたい。

【委員】

・私も外から入ってきた人間だが、こうした会議に来ていつもがっかりする。グランドデザインがないまま、個別の議論に入っていく。例えば赤字財政に対する根本的な対策を取らないまま、個別の高齢者対策とか議論に入っていく。今後の10年は今までとは違う時代がくる。補助金があてにできなくなり、行政に任せておけばよい時代でなくなる。根本的に体質を変えていかなければならない。

・審議会は大きい方向性を決めてくほうがよい。産業においては、昔は繊維産業、そして機械産業が少し、今は電子産業が少しある。今後10年間で産業をつくっていく必要がある。

・基金は1億5千万円しかない。羽咋も事業仕分けが必要。優先順位を決めて事業をやれば、道を誤らない。

・分科会で個別に話をしても本が出来て終わるだけ。

・市の財政が思ったより悪い。

・審議会では、個別の施策を立てるための市の方向性、指針を示す必要がある。

【委員】

・こうした計画を立てるとき、マスタープランなど3段階を通して、フィードバックしながら検討していく必要がある。失われるべき10年になったら大変だ。審議会の進め方は、再検討する必要がある。

【委員】

・私は、30年前からまちづくりをやってきた。本吉二六市長のときに、青年会議所でグランドデザインを提案した。今の羽咋市は昔と何も変わってないなどというのが印象。

・話を聞いていても、まちづくりのコンセプトがわからない。個別の政策の議論に入って行く前に、まずコンセプトをつくって欲しい。そうでないとどこから議論をしていけばいいのかわからない。

【委員】

・私は青年の代表として来ている。先ほどから青年の意見を聞きたいとの話があり、有りがたいことだと思っている。

・コンセプトは大事だとは思っているが、そのためには各論が大切だと思う。例えば子育てというタイトルだけでも大きなテーマだと思う。一つ一つ各論を掘り下げないとマスタープランが中身のないものができるあがってしまうのではないか。例えば道路とか説明を受けないとどこに問題があるのかわからない。達成度なりをみないと漠然としすぎるのではと思う。これから過去 10 年間の市がどうなってきたか説明があるようだ。その流れを見ないで今後の 10 年間を考えることができないのではないか。

【委員】

・説明の時間が長すぎる。他の委員会も出ているが、最後に討議の時間が付け足し程度しかない。事前に資料を渡し、必要なことだけ事務局が説明するというように時間の無駄を省くべき。

・審議員も真剣に学習してくる。今後の 10 年間は大変な 10 年になる。審議員は責任を持って務めなければならない。

【委員】

・今ここで議論していても同じなので、事務局に今後どういう方向でやっているのか検討してもらおうということではどうか。

【事務局】

・審議会が進め方については次回説明する。

・今回は、福祉について担当課から説明をする。20 分程度説明し、残りの 1 時間半程度は議論して頂き、自由に意見を出してもらいたい。今回は初回なので説明が長かった。今回は、資料を事前にお渡しして目を通していただくようにする。

7. 次回会議について

【事務局】

・第 2 回 7 月 8 日(木) 19 時から

8. その他

【アドバイザーから総括】

・今回なぜ、人口だったか。10 年後を考える上で議論の基準となるのが、人口。

財政は予測が立てにくいということもあり、個別での議論も必要になる。審議会は、大きな方向で合意して個別に入っていくと、議論も進むのではないか。

【事務局】

- ・ 次回の開催案内は、会議録と資料と一緒に送付する。

9. 閉会